



令和4年7月15日

東かがわ市議会議長

井上 弘志 様

東かがわ市議会議員
(会派・個人・その他)

山口 大輔



行政視察等報告書

1	日 時	令和4年6月29日 から 令和4年7月1日	
2	参加者	個人（山口大輔）	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		①自治体DXの先進事例	東京ビッグサイト
		②時代に求められるイベントづくり	
		③教訓から取組む地域防災	
		④SNS活用で成功するイベント集客	
		⑤未来を創る地域防災	
4	研修・調査内容	<p>自治体DXと言われているが、実際にその仕組みを十分理解した上で取り組んでいるかは自治体によって様々である。 実際に提供する側の民間企業が、どのレベルのものを意識して取り組んでいるかを把握することは、今後の自治体DXの進捗について審議、質疑する上で必要不可欠であると考えている。もともとオンラインやデジタルが得意ではあるが、得意だからこそさらに上を目指せる世界があることを意識しておくべきと考え、今回のセミナー受講並びに、DXに関する展示ブースの見学を行うこととした。</p>	
5	研修成果	<p>別紙のとおり (感想・今後の取り組み等)</p>	
6	費 用	50,600	円

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

視察研修報告書

令和4年6月29日～令和4年7月1日

東かがわ市議会議員 山口大輔

今回展示場で開催されていた下記5本のセミナーを受講しました。写真、動画の撮影が禁止で資料は配布されない形式のため、テキストのみの報告となります。それぞれのセミナーにおいて心に残った内容を、以下にキーワードと解説という形で記載し、最後に所見としてまとめる形で報告を行います。

- ①自治体DXの先進事例／福島県磐梯町CDO（最高デジタル責任者）菅原 直敏
- ②時代に求められるイベントづくり／（株）グローバルプロデュース 代表取締役社長
クリエイティブディレクター 光畑 真樹
- ③教訓から取り組む地域防災／宮城県仙台市市長 郡 和子
- ④SNS活用で成功するイベント集客／（株）メンバーズメンバーズグッドコミュニケー
ションズカンパニー グループ長 福島 享之
- ⑤未来を創る地域防災／熊本県人吉市市長 松岡 隼人

①自治体DXの先進事例

・デジタル技術は「手段」であって「目的」でない

デジタルを使うことが目的になってしまうが、目的は「使いやすさ」であって、そのためにデジタルが必要な部分をデジタル化していくという考え方が大事。仮にデジタルを使いにくいと感じるのであれば、使いやすいUIを意識する必要がある。

・ヒト・モノ・カネに続くものがDX

あくまでも手段の1つという落とし込みが大切。

・できない理由を探すな、やってみよう。

行政はできなかったことを失敗とするが、DXの世界では挑戦しないことが失敗である。

・オンラインになったら人材が増えた！

委員会や審議会などの委員会に応募をかけても人がなかなか集まらない。オンラインにすることで市内外から参加が可能になり参加者が増加した。

【所見】

自治体で実際にDXに取り組んでいる講師の話で聞きこたえがあった。手段とゴールを取り違えないということはオンラインを進めていく上でも分かっているようで分かっていないケースが多く注意が必要である。また議会が積極的に取り組んでくれたのも成功事例の1つと言っていた。東かがわ市DXの成功には、東かがわ市議会の積極的な運用が望まれると強く感じた。

②時代に求められるイベントづくり

・ 配信ありきのイベントがこれからのマスト

リアルイベントが戻ってきたが、ただのリアルのためのイベントはもうありえない。リアルは臨場感があるプレミア感としての位置づけとし、拡散力という意味でオンラインを使ったハイブリッドが主流になる。

・ 4本目の柱にメタバースが来る

リアル、オンライン、ハイブリッドの次の柱としてメタバースが必ず入ってくる。主流になる5~10年後を意識して今から取り組んでいくことが重要である。

・ 出会い×ストック×違和感で動け

ストックとは自分の持つ経験値であり引き出し。違和感は気づいた瞬間手を打つという意味である。

・ いらぬものはプライド・ロジック・過去事例・頑固

この4つがDXへの移行の大きな妨げになる。これを捨て去らない限り、DXのみならずプロデュースもままならなくなる。

【所見】

中止していたリアルイベントが少しずつ再開してくる。しかしながら1度体験したオンラインの便利さは忘れることがないため、ただリアルに戻ることは停滞に繋がる。今後は最低でもハイブリッドを意識したイベント運営が求められる。外部の関心を持った層とのオンラインを使った連携を今後どれだけ持っていけるかが、イベントを集客の集団に変える方法だと強く感じた。

③教訓から取り組む地域防災

- ・ **震災後は自主防災組織が97.7%となった**

大災害の初期は、公助ではなく自助・共助が中心となる。今回の災害を受け、地域のことは地域で考えるという考えが根付いている。

- ・ **地域で独自の運営マニュアルが策定された**

地域によって起こり得る被害想定が異なるため、自主防災組織ができた時点で独自の運営マニュアルが作られていった。

- ・ **復旧とは、元に戻すことではなく。新たに創ることだ**

過去に戻ることはできない。震災前の時代に戻すのではなく、新しくリノベーションしていく考えを持つことが重要である。

- ・ **地域防災リーダーの設置**

自助・共助をより充実していくためにも自主防災組織毎にリーダーを誰にするかを明確にしていった。

- ・ **災害は発生するという認識を持つ**

災害はどこかでいつか起こるものではなく、今この場所で起こる可能性があるという認識を常時持つておくことが有事の心構えにつながる。

【所見】

災害時から復興していく姿を映像で見ることができた。東かがわ市も南海トラフ大地震がいつ来てもおかしくない時代を迎えている。今後市内における避難所マニュアルや避難支援の体制をしっかりと確認し、さらなる充実に向け推し進めていきたい。

④SNS活用で成功するイベント集客

・開催前／開催中／開催後で使い方が異なる

開催前は非認知を認知に変えるため。開催中は検討から参加につなげるため。開催後は体験から参加へ変えるためのビジョンを持つべきである。

・公式はフォロワー×コンテンツ×広告費

効果は足し算ではなく掛け算になるよう意識すること。弱いものを助けるためにどこを意識するかが重要である。

・ハッシュタグはこう使え

ビッグワード（拡散用ハッシュタグ）→情報収集用ハッシュタグ→オリジナルハッシュタグの順で使用する。ついつい知ってほしい事を言いたがるが、ターゲットはその言葉はいきなり調べに来ない。大衆的な言葉から入り、少しずつ興味をもたせた先にしかオリジナルワードは届かない。

・集客目的以外の目標値を作っていたか

参加者がどれだけ集まるかというだけでは次に繋がらない。効果検証やフィードバックするための検証値を設定しておくことが重要である。

【所見】

オンラインだけでなく、リアルでの行事にも流用できる内容だった。ハッシュタグの使い方は議会広報や市広報のあり方や構成を考えていく上で重要と思われる。今後広報について取り組む際は参考にしたい。

⑤未来を創る地域防災

・政策を大きく変える

水害前はダムに頼らない治水をやってきたが、現在はダムを作る方向性にシフトチェンジしている。

・文句を言い合うようになる

災害でみんなが大変になると、みんなが同じ境遇のためぐちを吐き出せなくなる。その結果文句を言い合う形になってしまうという事を知っておくべき。

・当たらなくても打ち続ける

災害の可能性があるのであれば、晴れていても避難の呼びかけをしていきたい。オオカミ少年と言われる可能性があったとしても、大切なことは命を守るための呼びかけを続けることだ。

・避難の空振りと呼ばれるのが嫌

案内をして何もなければ慎重になりすぎ。案内が遅れるとどうしてもっと早く出せなかったのかと言われるのが行政である。ただ命を守るために早め早めの呼びかけをしていきたいが、空振りと言われないよう啓蒙を続けていきたい。

【所見】

実際の水害の様子を写真や映像を見せながら説明を受けた。災害対策だけでなく災害後復旧をしているさなかで人口減少が止まらなくなるというリスクについても言及されていた。無事だったかたが市外へ流出するという事が確実に起こると想定して、今後の災害復旧に向けた対策を行政とともに考え取り組んでいきたい。

展示

今回はDXと災害に関する展示が多く見受けられた。セミナーの合間にいくつもの出展ブースを周り資料をもらうことができた。今後新しい事業に取り組む際に、今回得た資料を活用していきたい。

今後関心のある出展者については、メールマガジン等の登録を行い、情報のブラッシュアップに努めていく予定である。